

香川県のモウコタンポポ

小川 誠¹・久米 修²

[Makoto Ogawa¹ and Osamu Kume² : *Taraxacum mongolicum* Hand.-Mazz. in Kagawa Prefecture]

キーワード：タンポポ調査，モウコタンポポ，四国初記録

香川県観音寺市で四国初記録となるモウコタンポポ (*Taraxacum mongolicum* Hand.-Mazz.)が見つかった。概略を速報としてタンポポ調査ニュースレターに投稿した(小川, 2014)が、詳細を報告する。

モウコタンポポは日本、朝鮮半島、中国、モンゴルなどの東アジアに分布する多年生草本である。国内では九州北部に分布し、頭花が小さく、外総苞片の長さが12~15mmと小さいが、内総苞片に比べて外総苞片が2/3以上あるのが特徴である。また、3倍体または4倍体なので花粉の大きさがバラバラである(Morita, 1995)。なお、本州(山口県)にも記録がある(時田, 1997)。

代表的な図鑑(北村ほか, 1957; 大井, 1983など)にほとんど掲載されていないことから、モウコタンポポはあまり知られていない。しかし、2009~2010年に開催されたタンポポ調査・西日本2010では、福岡県、佐賀

県、岡山県で記録されている(タンポポ調査・西日本2010実行委員会編, 2011)。

そのタンポポ調査・西日本2010の際に、筆者の一人久米が、香川県観音寺市で見慣れないタンポポを発見した。全体が小型で華奢なのでオトメタンポポと仮称したものの、同定不明のままであった。そして、タンポポ調査・西日本2015に際し、久米と小川が現地を訪れて実物を確認し、標本を持ち帰った。小川はタンポポ調査・西日本2010の際に岡山県で見つかったモウコタンポポを倉敷市立自然史博物館の狩山俊悟氏に案内してもらい現地を確認したことがあった。それとよく似ていたので詳しく調べたところ、モウコタンポポであることがわかった。

香川県のモウコタンポポは、セイヨウタンポポのような外来タンポポに比べて頭花が小さいので、この周辺に

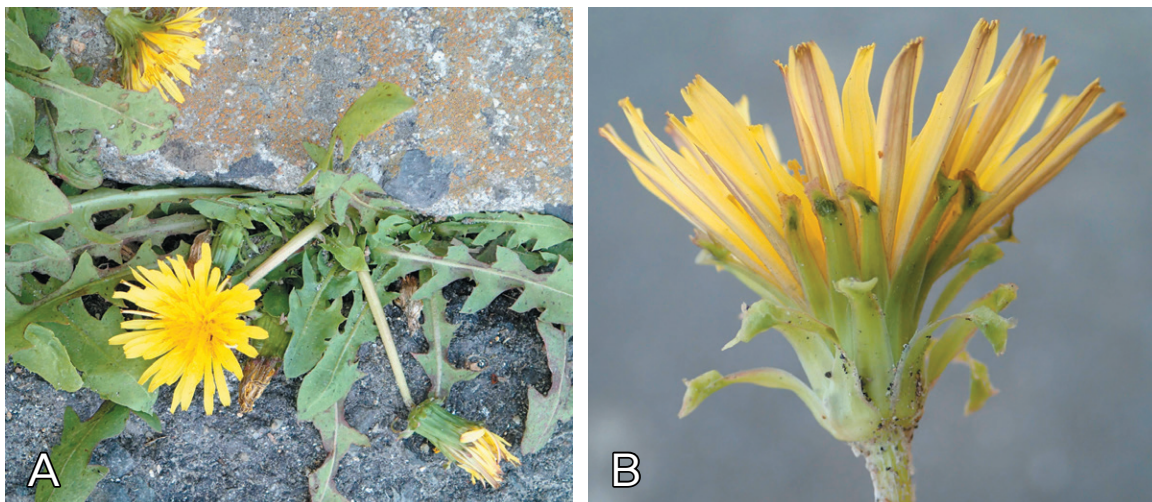


図1. 香川県のモウコタンポポ。A：アスファルト道路脇の隙間にへばりつくように咲くモウコタンポポ(生育地②)，B：モウコタンポポの頭花。

2014年11月30日受付，12月26日受理。

¹ 徳島県立博物館，〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園。Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Tokushima 770-8070, Japan.

² 〒761-8074 高松市太田上町 78-11. Ohtakamimachi 78-11, Takamatsu 761-8074, Japan.

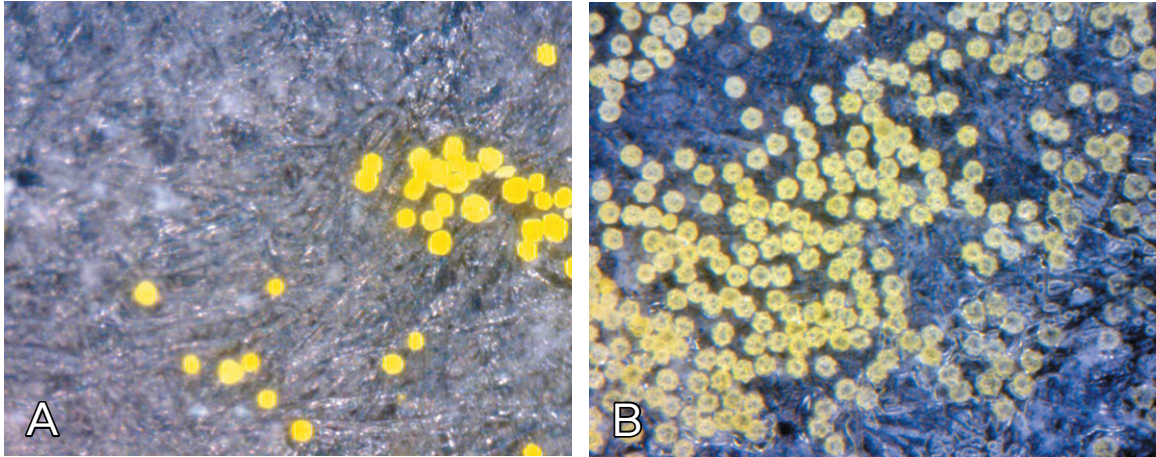


図2. モウコタンポポとカンサイタンポポの花粉. A: モウコタンポポ, B: カンサイタンポポ.



図3. 香川県のモウコタンポポの産地.

多いカンサイタンポポのようにも見えるが、外総苞片が長く内総苞片に比べて外総苞片が2/3以上の長さになる点で異なる。また、外総苞片の角状突起が目立つものも多く、外総苞片が内総苞片に密着せずに反り返る(図1)。さらに、この植物の花粉の大きさはバラバラで、2倍体で均一な花粉サイズを持つカンサイタンポポとは明確に区別できる(図2)。

今まで確認できた産地は次の4カ所ですべて香川県観音寺市高屋町である(図3)。

生育地①田の畔: 34.148371° N, 133.653158° E (図4)

生育地②アスファルトの路傍: 34.145° N, 133.65503°

E (図5A, B)

生育地③住宅用造成地: 34.14525° N, 133.65275° E

(図6A, B)

生育地④民家の庭: 34.145531° N, 133.656555° E (図

7B)

生育地①と②は数個体しか見られず、生育地③は最も多くて10個体程度が見られた。生育地④は人家の庭で、以前は確認できたが今回は生育を確認できなかった。これらの産地は、すべて1kmの円内に収まる狭い地域である。

生育地②~④は、都市化が進んだ環境で在来のタンポポは生えにくい場所ではあるが、タンポポ調査・西日本2010でも、福岡県のモウコタンポポは人家の近くや路



図4. 香川県のモウコタンポポの生育環境（生育地①）.



図5. 香川県のモウコタンポポの生育環境（生育地②）. A：民家と道路の間に生育，B：同地点を別方向から撮影.

傍など同様の環境に生育していると報告されているので、生育環境の点も一致している（タンポポ調査・西日本 2010 実行委員会編，2011）.

今まで香川ならびに四国ではモウコタンポポの記録は見あたらない。久米は昔付近の高校に通っていたがこのタンポポについては気がついていない。そのことや分布が非常に狭い範囲であることから、当地のモウコタンポポは移入（国内帰化）である可能性が高い。

タンポポ調査・西日本 2010 の際に、本来本州（関東・中部地方）に分布するシナノタンポポが、高知県の道の駅構内で見つかった。他にもトウカイタンポポが、従来の生育範囲以外で見つかり、状況から移入である可能性が高いとされた。このように在来タンポポの移入例が他の種でも見られる。タンポポ調査により綿密なタンポポの分布が記録されることによって、こうした在来タンポポの移入といった今まで気がつかれていない実態も明らかになってきている。2014～2015 年にかけて開催されているタンポポ調査・西日本 2015 では、モウコタンポ

ポをはじめとする在来タンポポの新産地が発見されるであろう。

今回の調査にあたっては、岡山県のモウコタンポポを案内いただいた狩山俊悟氏、香川県のモウコタンポポ調査に同行していただいた香川植物の会の佐藤 明氏、赤木綵子氏、メーリングリストを通じてご助言いただいた森田竜義氏、タンポポ調査・西日本 2015 実行委員会の皆様から貴重な情報をいただいたのでお礼を申し上げます。

証拠標本

モウコタンポポ 香川県観音寺市高屋町

34.14525° N, 133.65275° E 2014 年 4 月 15 日 小川
誠採集 No.20140415003 (TKPM BSP 088338)

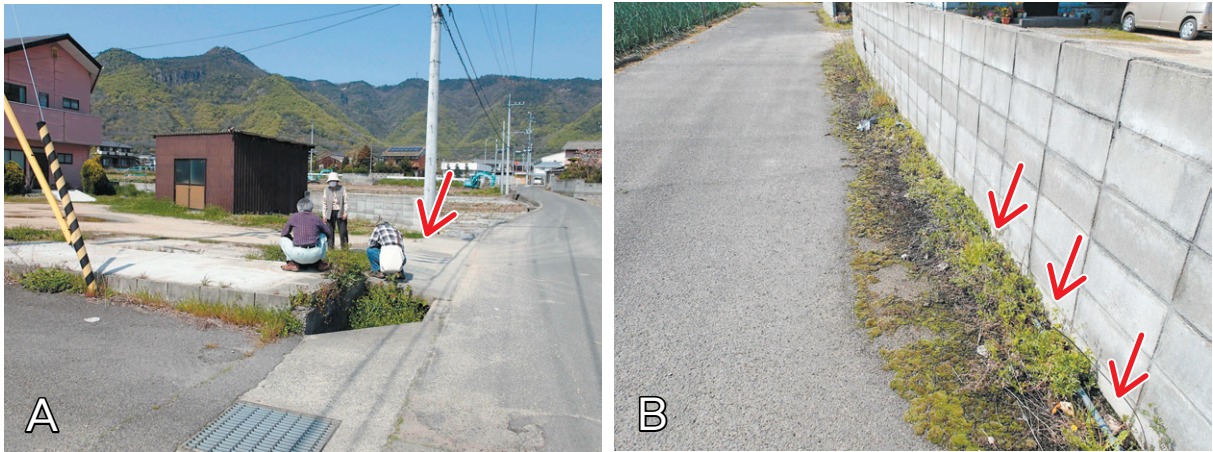


図6. 香川県のモウコタンポポの生育環境（生育地③）。A：住宅用造成地，B：ブロック塀に沿って点々と生育。



図7. 香川県のモウコタンポポの生育環境（生育地④）。2014年4月15日の調査時には生育が確認できず。

引用文献

- 北村四郎・村田 源・堀 勝. 1957. 原色日本植物図鑑 草本編 I 合弁花類. 297 p. 保育社, 大阪.
- Morita, T. 1995. *Taraxacum* Weber ex F.H.Wigg. In Iwatsuki, K. et al., eds., *Flora of Japan III b* p. 7-13. Kodansha, Tokyo.
- 小川 誠. 2014. モウコタンポポに注意してください. 西日本タンポポ調査ニュース, (2): 4-5.
- 大井次三郎. 1983. 新日本植物誌顕花編. 1716 p. 至文堂, 東京.
- タンポポ調査・西日本 2010 実行委員会編. 2011. タンポポ調査・西日本 2010 報告書. 144 p. タンポポ調査・西日本 2010 実行委員会, 大阪.
- 時田房江. 1997. モウコタンポポ. わたしたちの自然史, (99): 21.